

# 横川っ子だより

## 教育とは、種を蒔くようなものだ

10月1日に横川小学校に着任し、2か月余りが経ちました。2学期は、横川祭りをはじめ、たくさんの行事が次々に駆け巡りました。こうして、無事に終わることができたのは、保護者や地域の皆様のあたたかいご支援のおかげです。本当にありがとうございました。

私は横川小学校に勤めさせていただき、保護者や地域の皆様が、大切なお子様を、学校を信じて、任せて、預けてくださっていることを、ひしひしと感じました。私たちは、その思いをしっかりと受け止め、「学校は子どもたちがよりよく成長するためにある」「失敗してもいつでもやり直せる」「だれもが幸せになるためにある」学舎であることを深く考えることができました。

子どもは未来からの宝物です。子どもは、もともと、こうしたいという思いをもっています。その思いより大人の思いの方を優先させて、先に大人が決めた目的地までレールを引いてしまうと、子どもは指示がないと動けなくなります。

「教育は種を蒔くようなもの」と言われます。荒れ地を耕して種を蒔いても、芽はすぐには出ません。芽が出るのは、10年後かも20年後かもしれないし、もっと先かもしれません。時には、雨で流された先で芽吹くかもしれません。それでも、私たちは種を蒔き続けます。

過日、プロ棋士 藤井 聡太七段の師匠 杉本 昌隆氏の講演に出席する機会がありました。「将棋界における若い人材との接し方」がテーマでしたが、大変興味深い話がいくつもありません。

- ・弟子が師匠を負かすことを「恩返し」と言う。
- ・無言でも、対局者同士、相手が自分をどう考えているかがわかる。
- ・駒には個性があり、協力したり組み合わせたりすることで有利に働く。
- ・弟子には特別扱いはしないけれど、個人的には応援している。
- ・真の才能とは育てるものではなく、自然に育つもの。手を加えない。
- ・師匠と弟子という関係ではなく、最後は人と人との関係である。

子どもは無限の可能性をもっています。子どもがどうしたいのか、子どもが決めて、その思いを大切にして、応援してやりたいと思います。私たち大人ができることは、芽も、花も、実も見ることにはできないかもしれませんが、子どもの心を耕しながら、種を蒔き続けることです。



## 不審火によりご心配をおかけしました

すでに新聞やテレビで報道がありましたとおり、12月3日の15時30分頃、横川小学校の生活科室他、全6か所で不審火が発生しました。保護者や地域の皆様には、大変ご心配をおかけし、深くお詫び申し上げます。現在、普段どおりの教育活動を行っております。

当日、子どもたちは15時頃に下校し、15時10分から15時40分まで職員会議を行っており、校内の施錠はしてありませんでした。西昇降口付近にある防犯カメラから、不審火が発生した時刻に不審者の姿が捉えられていましたが、未だ解決には至っておりません。

危機管理は、99%が事前管理が大切であると認識していながら、徹底されておりました。

現在、半田消防、半田警察が入って、原因究明にご尽力いただいております。

本校といたしましては、以下のように、不審火の防止に努めて参ります。

最悪を想定し、慎重かつ素早く、誠意をもって、組織的に対応します。

- 子どもの下校後は、速やかに昇降口の扉や教室の窓を施錠するなど、戸締まりを確実に行う。
- ライターやマッチなどの火の元は、鍵のかかる部屋に保管するなど、管理の徹底を図る。
- 不審な人を見かけたときは、複数で対応したり、声をかけたりするなど、適切に対応する。
- 教室等の整理整頓を確実に行う。
- 校地内のゴミを確実に拾う。

